



第69号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール info.koryuji@gmail.com
責任者 鴨井 智峯

暑中御見舞い申し上げます

高龍寺 院家

令和5年4月15日～7月17日に村上海賊ミュージアムにて企画展「大島島四国へんろ展」が開催されました。

高龍寺に所蔵されている、島四国の開創者である毛利玄得が島四国開創の間もない時期に記した大島島四国の札所の本尊・場所・名称が順に記された「伊予国越智郡二名大嶋・橘之郷准四国御札所納経所」や毛利玄得・金剛院玄空・池田重太の3人が、文化4(1807)年2月に札所の整備をはじめ、4月に開創、翌年に今治藩により罰せられ、文化7(1810)年に許されるまでの様子を、具体的にうかがい知ることができる資料である「新四国二附一条之事」などの資料が展示されました。

また、高龍寺には「高龍寺記」という高龍寺の縁起をまとめた古文書が伝わっております。

このような資料は先代が残してくれた地域の歴史や文化を知ることができる宝です。

今後、村上海賊ミュージアムのご協力のもと、現代語訳などを行い、広く皆様に知ってもらえますように、公開する体制を整えて伝えていかなければならないと思っています。

合掌



三毒について

副住職 鴨井悠真

在家勤行法則に懺悔文というお経が書かれていますが、簡単に言いますと「私は今まで貪、瞋、痴（とん、じん、ち）の三つにとらわれてきたことを反省し、悔い改めます」という意味のお経です。

この貪、瞋、痴ですが、仏教ではこれを三毒と呼んでおり、人間の煩惱は突き詰めればこの三つになると言われています。

まず貪とは字の通り、貪りの心です。高い車や服が欲しい、高いお酒も飲みたいなど煩惱としては典型的なものといえるでしょう。

また、貪りとは人間関係にも当てはまります。後輩に尊敬されたい、意中の相手に好かれたいなど、そう言った気持ちも仏教では煩惱に含まれます。

次の瞋ですが、これは怒りです。人生は思った通りに進むことなど滅多にありません。

欲しいものがあったとしても金銭的、能力的な理由で手に入らず、後輩には煙たがられ意中の相手には嫌われてしまうことがあります。

そして、思い通りに事が進まなければ人は腹が立ちます。怒りのせいで、人は間違ったことをしてしまうことが多々あります。

最後の痴ですが、これは愚かさです。愚かさから貪りの心と怒りの心が生まれ、貪りの心と怒りの心のせいで更に愚かさが悪化していく。そんな負のスパイラルが生まれるわけです。

人である以上煩惱を完全に消し去ることは不可能ではありますが、これに振り回されてしまうと幸せからはどんどん離れて行ってしまいます。

どうかこのことを戒めて、精進してまいりたいと思います。



高龍寺 SNS のご紹介

高龍寺の日々を配信しております。ぜひ、ご覧ください



高龍寺のHP



住職の Facebook



@koryuji597



@koryuji597

高龍寺でお涅槃が行われました

令和5年3月26日に、高龍寺での開催は5年に一度の開催となるお涅槃が行われました。元禄14(1701)年、戸田徹西の作である涅槃図や冥界で死者の生前の行いを裁判する様子を描いた十王地獄絵図はお涅槃だけの公開となります。

また、地域の方によるフラダンスや水軍太鼓の披露もあり、盛大に取り行われました。お釈迦さんのご法事を勤めるにあたり、多くの檀家さんからお供え料をお納め下さいました事に篤く感謝申し上げます。おかげさまで素晴らしい法要を勤める事ができました。



▲迫力満点の能島水軍太鼓



▲布袋さんも花手水でお祝い



▲地域の方のフラダンス披露



▲お寺カフェ



▲檀家さんの娘さんがお寺カフェを手伝ってくれました



▲フィナーレは餅投げ！



▲戸田徹西の作である涅槃図



▲大島の4ヶ寺のお坊さんによる涅槃法要



▲ずらっと並んだ十王地獄絵図は圧巻です



▲お涅槃の際に新しい角塔婆を建立します